



2026年10月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年6月12日

上場会社名 くら寿司株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2695 URL <https://www.kurasushi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 邦彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報・IR本部長 (氏名) 岡本 浩之 TEL 072-493-6189
 半期報告書提出予定日 2026年6月15日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年10月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年11月1日～2026年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年10月期中間期	125,253	6.5	2,476	△14.7	2,917	△2.5	1,835	△6.1
2025年10月期中間期	117,625	1.3	2,903	△48.5	2,993	△50.1	1,955	△50.5

(注) 包括利益 2026年10月期中間期 3,554百万円 (90.5%) 2025年10月期中間期 1,865百万円 (△60.3%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年10月期中間期	23.09	23.09
2025年10月期中間期	24.59	24.59

(注) 当社は、2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり中間純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり中間純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年10月期中間期	164,369	89,626	39.1
2025年10月期	156,015	86,258	40.0

(参考) 自己資本 2026年10月期中間期 64,293百万円 2025年10月期 62,338百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年10月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2026年10月期	—	0.00			
2026年10月期（予想）			—	15.00	—

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。上記の2026年10月期（予想）については、第2四半期末は分割前、期末は分割後の金額を記載しています。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当金は30円です。

3. 2026年10月期の連結業績予想（2025年11月1日～2026年10月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	257,000	4.9	5,000	△8.4	5,200	△15.8	3,000	△16.8	37.74

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注2) 2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。上記の1株当たり当期純利益については、当該株式分割を考慮した金額を記載しています。なお、当該株式分割を考慮しない場合は、75円48銭となります。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー 社 (社名) 、 除外 ー 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年10月期中間期	82,799,200株	2025年10月期	82,799,200株
② 期末自己株式数	2026年10月期中間期	3,312,926株	2025年10月期	3,312,726株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年10月期中間期	79,486,274株	2025年10月期中間期	79,483,058株

(注) 当社は、2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提条件その他関連する事項につきましてはP3「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2025年11月1日から2026年4月30日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境などの改善は見られるものの、中東情勢をはじめとする地政学リスクの高まりにより、先行きは依然として不透明な状況が続いております。外食産業全般におきましても、原材料価格や人件費の上昇など、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、特許技術である抗菌寿司カバー「鮮度くん」を開発・設置しているだけでなく、お客様が入れ替わるごとに醤油差しなどの備品を入れ替えるクリーンテーブル、従業員の技術や接客等を競うコンテストを海外子会社も含めた世界規模で開催し「現場力」を向上させ続けるなど、安心・安全で快適なお食事をしていただくためのさまざまな取り組みを行っております。

また、食べ終わったお寿司の皿5枚を各テーブルにある皿回収ポケットに入れるとゲームに挑戦でき、当たりが出ると景品がもらえる「ビックらポン!」は、当社を代表するシステムで、2000年の導入から今に至るまで大変人気となっております。さらに、大手回転寿司チェーンの中で唯一、回転レーンでお寿司を提供しているだけでなく、エンターテインメント性を常に進化させ続けており、楽しい食体験を追求しております。

店舗開発につきましては、国内5店舗、米国5店舗、アジア2店舗の計12店舗を出店いたしました。この結果、当中間連結会計期間末の店舗数は、全て直営で699店舗(「無添蔵」5店舗、「くらおさかな市場」1店舗、米国84店舗、アジア62店舗を含む)となりました。

なお、2026年5月28日、大手会計事務所EY社が主催する国際的アントレプレナー(起業家)表彰制度の世界大会「EY ワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2026」に、当社の田中邦彦社長が日本代表として選出され、参加いたしました。お客様の安心・安全のために、見えないところを大切にしている企業理念、業界の常識を変える独自のビジネスモデル、海外へ積極的に展開し2013年にユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」の素晴らしさを世界に広めていること、持続可能な水産業への取り組みなどが総合的に評価されました。

セグメント業績は次のとおりであります。

①日本

日本国内におきましては、都心部を中心にインバウンド需要が拡大する一方で、実質賃金は2022年以降一貫して減少傾向にあり、特に地方においてはその傾向が強くなっております。そのような中、商品面では、カニの王様といわれる「本ズワイガニ」や食品添加物であるミョウバンを一切使用していない「うに」など質の高い商品を中心としたフェアの展開だけでなく、自社セントラルキッチンでの最新加工技術である二段階熟成をいかした超熟成まぐろや超熟成まふぐなどの「超熟成シリーズ」、食事の最初に手軽に少量サイズの野菜を食べることで健康習慣をサポートする「食前の一皿シリーズ」も販売を開始いたしました。また、販売促進面では、人気アニメ「ハイキュー!!」や「名探偵コナン」など人気のあるコンテンツとのコラボ企画の実施により、売上高は好調に推移いたしました。さらに、2026年3月2日、回転レーンで商品を流している店舗数が世界No. 1であるとして、ギネス世界記録に認定されました。世界に誇る食文化ともいえる回転寿司を通じ、今後もお客様に「記憶に残る食体験」をお届けしてまいります。加えて、価格高騰が続いていたお米につきましては、ピークアウト感があるものの依然として高い水準が続く中、商品ごとのきめ細やかな商品設計を継続的に実施することで、適正な原価率のコントロールに努めました。

業界初の水産専門会社である「KURAおさかなファーム株式会社」で進めているAIを活用したスマート養殖により、サバを人工種苗から約800gの大型サイズまで育てることに成功いたしました。これは世界初といえる養殖技術です。このサイズまでの育成は漁業者の間でも実現困難と言われていましたが、AIの技術とKURAおさかなファームの職員の熱意により実現に至りました。2026年5月15日から期間限定、店舗限定ではありますが大型生さばとして販売も開始しており、脂乗りも抜群で非常に好評を得ています。

出店につきましては、都心店となる「下北沢店」、「御徒町店」を新規出店いたしました。

当社は財務戦略を重視し、さまざまな事業リスクに対応してまいりました。当社におきましては、前事業年度に引き続き実質無借金にて運営しており、当中間会計期間末の自己資本比率は67.9%と財務の健全性を維持しております。

この結果、売上高876億11百万円(前年同期比2.0%増)、経常利益32億12百万円(前年同期比7.8%減)となりました。

②北米

米国子会社 Kura Sushi USA, Inc. (KSU) におきましては、米国でも人気の「星のカービィ」や「ハローキティ」とのコラボ企画を実施いたしました。特に「星のカービィ」とのコラボ企画では、抗菌寿司カバー「鮮度くん」をカービィの顔をデザインした仕様にしたことなどがSNSなどで大変話題となり、たくさんのお客様にご来店いただきました。また、商品価格を一部見直したこともあり、KSUにおける当第2四半期(2025年12月~2026年2月)の既存店売上は、前年同期比108.6%と大変好調に推移いたしました。

出店につきましては、テキサス州の「フルーガービル店」を新規出店。年間16店舗の出店を目指し、積極的な店舗展開を推進しております。

この結果、売上高235億91百万円(前年同期比20.3%増)、経常損失7億15百万円(前年同期は経常損失7億2百万円)となりました。

③アジア

台湾子会社 亞洲藏壽司股份有限公司(KSA)におきましては、人気メニューを中心とした期間限定フェア開催や価格帯を広げた商品の展開によるメニューの魅力向上に加え、台湾でも人気の「サンリオファミリー」や「クレヨンしんちゃん」とのコラボ企画の展開により、売上高は好調に推移いたしました。2026年2月の春節期間におきましても大変多くのお客様にご来店いただきました。

また、出店につきましては、高雄市に「林園沿海路店」を新規出店いたしました。

この結果、売上高142億39百万円(前年同期比16.3%増)、経常利益4億21百万円(前年同期比97.5%増)となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高1,252億53百万円(前年同期比6.5%増)、経常利益29億17百万円(前年同期比2.5%減)、親会社株主に帰属する中間純利益18億35百万円(前年同期比6.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における資産総額は、1,643億69百万円となり、前連結会計年度末と比較して83億54百万円増加いたしました。これは、主に有形固定資産が100億85百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して49億86百万円増加し、747億43百万円となりました。これは、主に固定負債のリース債務が56億14百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、主に親会社株主に帰属する中間純利益18億35百万円を計上したこと等により、前連結会計年度末と比較して33億68百万円増加し、896億26百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが73億20百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが71億75百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが34億30百万円の支出となりました。この結果、当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)残高は、期首より28億69百万円減少し、213億2百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動の結果得られた資金は73億20百万円(前年同期比63.3%増)となりました。これは、主に税金等調整前中間純利益が28億57百万円であったことに加えて、減価償却費が55億70百万円あった一方で、法人税等の支払額が4億2百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は71億75百万円(前年同期比11.0%減)となりました。これは有形固定資産の取得による支出が68億10百万円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動の結果使用した資金は34億30百万円(前年同期は66億88百万円の収入)となりました。これは、リース債務の返済による支出が22億62百万円、配当金の支払額が7億95百万円あったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月10日に公表いたしました業績予想につきまして、現在のところ変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当中間連結会計期間 (2026年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,172	21,302
売掛金	6,296	6,488
有価証券	2,198	3,339
原材料及び貯蔵品	2,706	2,949
その他	2,625	3,151
流動資産合計	38,000	37,231
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	40,819	43,215
使用権資産(純額)	32,472	37,793
その他(純額)	23,088	25,456
有形固定資産合計	96,380	106,466
無形固定資産	2,027	2,026
投資その他の資産		
投資有価証券	4,340	3,375
長期貸付金	5,097	4,911
差入保証金	7,499	7,809
その他	2,669	2,549
投資その他の資産合計	19,606	18,645
固定資産合計	118,014	127,138
資産合計	156,015	164,369
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,450	8,277
短期借入金	1,172	749
未払金	9,882	8,877
未払法人税等	739	1,634
その他	9,923	9,914
流動負債合計	30,168	29,452
固定負債		
リース債務	34,704	40,318
資産除去債務	4,194	4,332
その他	688	639
固定負債合計	39,587	45,291
負債合計	69,756	74,743
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005	2,005
資本剰余金	14,489	14,489
利益剰余金	44,743	45,784
自己株式	△1,996	△1,996
株主資本合計	59,241	60,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1	1
為替換算調整勘定	3,098	4,009
その他の包括利益累計額合計	3,096	4,010
新株予約権	2,633	3,168
非支配株主持分	21,286	22,165
純資産合計	86,258	89,626
負債純資産合計	156,015	164,369

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年4月30日)
売上高	117,625	125,253
売上原価	48,097	51,431
売上総利益	69,527	73,821
販売費及び一般管理費	66,624	71,344
営業利益	2,903	2,476
営業外収益		
受取利息	290	290
受取手数料	86	91
為替差益	—	154
雑収入	80	99
営業外収益合計	457	636
営業外費用		
支払利息	191	184
為替差損	161	—
雑損失	15	11
営業外費用合計	367	195
経常利益	2,993	2,917
特別損失		
固定資産除却損	25	35
減損損失	228	24
特別損失合計	253	60
税金等調整前中間純利益	2,739	2,857
法人税、住民税及び事業税	1,098	1,295
法人税等調整額	101	46
法人税等合計	1,199	1,341
中間純利益	1,539	1,515
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△415	△320
親会社株主に帰属する中間純利益	1,955	1,835

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年4月30日)
中間純利益	1,539	1,515
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	6
為替換算調整勘定	326	2,031
その他の包括利益合計	326	2,038
中間包括利益	1,865	3,554
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	2,088	2,750
非支配株主に係る中間包括利益	△222	803

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,739	2,857
減価償却費	5,270	5,570
減損損失	228	24
受取利息	△290	△290
支払利息	191	184
棚卸資産の増減額(△は増加)	147	△216
売上債権の増減額(△は増加)	△450	△139
仕入債務の増減額(△は減少)	△364	△239
未払消費税等の増減額(△は減少)	△860	△174
その他	△873	56
小計	5,738	7,633
利息の受取額	271	273
利息の支払額	△191	△184
法人税等の支払額	△1,335	△402
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,483	7,320
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	—	△1,150
有価証券の償還による収入	—	1,076
有形固定資産の取得による支出	△5,197	△6,810
無形固定資産の取得による支出	△321	△250
投資有価証券の取得による支出	△3,828	△4,030
投資有価証券の償還による収入	1,515	4,304
差入保証金の差入による支出	△221	△339
差入保証金の回収による収入	35	50
その他	△44	△24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,061	△7,175
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△46	△446
リース債務の返済による支出	△1,803	△2,262
配当金の支払額	△1,585	△795
ストックオプションの行使による収入	135	74
連結子会社の増資による収入	9,988	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,688	△3,430
現金及び現金同等物に係る換算差額	△312	415
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,797	△2,869
現金及び現金同等物の期首残高	23,043	24,172
現金及び現金同等物の中間期末残高	25,841	21,302

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	85,780	19,605	12,239	117,625	—	117,625
外部顧客への売上高	85,780	19,605	12,239	117,625	—	117,625
セグメント間の内部 売上高又は振替高	147	—	—	147	△147	—
計	85,928	19,605	12,239	117,773	△147	117,625
セグメント利益又は 損失(△)	3,482	△702	213	2,993	—	2,993

(注) セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の経常利益と一致しております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年11月1日 至 2026年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	87,422	23,591	14,239	125,253	—	125,253
外部顧客への売上高	87,422	23,591	14,239	125,253	—	125,253
セグメント間の内部 売上高又は振替高	189	—	—	189	△189	—
計	87,611	23,591	14,239	125,442	△189	125,253
セグメント利益又は 損失(△)	3,212	△715	421	2,917	—	2,917

(注) セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の経常利益と一致しております。